



6日に発表会を終えましたが、子どもたちの生活は続いています。給食後、遊戯室で発表会ごっこが始まりました。当日までに他のクラスの発表を客として見に行った子どもたちは、劇の展開、せりふ、使ったことのない楽器にあこがれの気持ちをもっています。演じる人になったり客になったりとそれぞれが発表会ごっこに参加しています。



【はな組 三匹のこぶた】

面をつけて参加。れんがの家では、後ろに隠れたそら組が、おおかみの吹き飛ばそうとするタイミングに合わせて家を揺らし「飛ばないよ～」と言い返しています。おおかみ役の教師は、客になっていた子どもを誘ってみんなの力で吹き飛ばそうとしました。



【ほし組 ぽんたのじどうはんばいき】

遊びの時から使っていた面をつけて、ほし組が同じ役のはな組の手をつないで登場しています。そら組は、ぽんた役になって自動販売機の後ろからものを出す役がしたかったようです。



【そら組 ブレーメンの音楽隊】

そら組は、ほし組とはな組に自分の面や衣装を貸しています。同じ役の幼児の手をつなぎ「次に出るよ」「〇〇って言うよ」と教えながら一緒に動いています。客になって見ていたそら組の幼児も、場面転換の時には、客席から出て来ていつもしていた自分の仕事をしてまた客になって見ていました。

【道の歩き方についてお願い】

二期は園外保育に多く出掛け、いろいろな体験をすることができました。歩く中で、笛が鳴ったら、壁ぺったん（一列になり、壁等に背中をつけて車を見る）ことはできるようになりました。半面、前の人と同じスピードで歩く、遅れたら急ぐ、道の端を歩く、縁石や家の敷地に入らない、金属の溝蓋の上で飛び跳ねない等は、大きな課題です。自家用車での通園だと思いますが、ご家庭でもお子さんと散歩をしながら、横断歩道は必ず止まって確認し「あそこに車が来ているけれど渡れる？待ったほうがいい？」とお子さんに尋ねたり、大人がモデルとしてやり方を見せたりしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

行事の多い二期でしたが、保護者の方のご協力のお陰で、一つひとつの行事を無事に終えることができました。子どもたちは、いろいろな経験を通して、自信をつけ、新たなことに取り組もうとしたり、自分の思いや考えをあきらめずに伝えようとしたりするようになってきました。野口健名誉校長が来校され、活動報告をする際も、そら組は、マイクを持ち、自分たちが楽しかった園外保育について、また分かったことや感じたことを大勢の人の前で発表することができました。また、できるようになりたいと思うことに根気強く取り組み（一輪車に3か月取り組んだ幼児もいます）、できるようになるうれしさを味わっています。その姿をほし組とはな組は見ています。すでに一輪車の練習を始めた、「来年はぼくらが野菜を切るよな」と進級を楽しみにしたりする声も聞こえます。卒業・進級まで3か月、子どもたちの成長をしっかりと支えていきたいと思っています。

ご家族おそろいでよいお年を迎えられますよう願っております。

